

## 四ツ又山&鹿岳山行報告



**【山行日】** 2016年 4月 24日(日) 晴れ  
**【集 合】** 岩舟支所P AM 6:00  
**【費 用】** マイカー2台 : 2,500円  
**【メンバー】** CL:鈴木ユ、岩淵、大西、香川、  
島田、津佐、藤原、松館、渡辺、渡辺  
**【コースタイム】** 岩舟支所 P6:00=鹿岳登山口  
P7:30/7:45~天狗峠 8:45~四ツ又山 9:10/9:20  
~マメガタ峠 10:20~一ノ岳 11:30/12:00~  
二ノ岳 12:35/12:45~高原下降点 13:15~  
木々岩峠登山口 14:25~鹿岳登山口 P14:45

**=道の駅「しもにた」15:15/15:30=岩舟支所 P16:40**

四ツ又山の赤ヤシオを狙って、鹿岳の岩峰歩きと併せた周遊コースを計画した。  
道の駅「しもにた」でトイレを済ませ、登山口に着くと周りの山は緑が濃くなっていた。

今年はや暖冬の影響で花の時期が早く、赤ヤシオはもう終わってしまったかなと思った。登山口駐車場には簡易トイレがあり、女性たちはトイレを済ませて出発する。舗装道路を大久保集落まで戻り、四ツ又山登山口の標識に従って左折する。民家の間の道路を登って行き、人家が無くなると山道に入る。明るい畑の脇を通り、杉林の道を進むと分岐に出て右に曲がって天狗峠に向かう。薄暗いスギの植林帯を九十九折れに登り、自然林に変わると急登となり頑張って登ると天狗峠に着く。天狗峠で休憩



をとり、冷たいオレンジで喉を潤す。ここからは尾根歩きとなり、新緑とミツバツツジの間を登るとも爽やかな道となる。少し緑が濃くアカヤシオの花はあまり期待出来ないと思いながら歩いた。



しばらく急登を頑張ると分岐になり、四ツ又山と小さな標識があり右に登るとⅠ峰の頂上に着く。

四ツ又山は四つの峰があり、Ⅰ峰からⅢ峰には石像が祀られている。Ⅰ峰からの眺望は抜群で、これから登る鹿岳の岩峰が目の前に迫っている。Ⅰ 淵さんが「エ~あんなところにどうやって登るのよ?」と騒いでいた。例年だと山頂はアカヤシオでピンクに彩られているが、今年は見ごろを過ぎて咲残りの花がかろうじて

見られた。代わりにミツバツツジやヤマツツジが見頃で、急登の疲れを癒してくれる。

Ⅱ峰・Ⅲ峰とロープを頼りに、急なアップダウンを繰り返してⅣ峰からの下りはさらにきつくなる。

マメガタ峠まで降り、やっと一息ついて休憩をとる。デコポンと水で水分を補給し、一の岳への登り



にかかる。岩場の登りにかかると、前のグループのペースが遅く、途中の梯子場で先に登らせてもらう。鎖やロープで岩壁を縫うように登り、一の岳と二の岳の間のコルに着く。

ここから左に少し進むと下高原からの道と合わさり、大きな木製のハシゴを登りロープや鎖を頼りに急な岩場をよじ登ると一の岳の肩に出る。肩から緩やかに登ると石碑が建つ山頂に着き、記念写真を撮る。

眺望を楽しんだ後、山頂のすぐ先で昼食とし、

本日の山ごはんは天ぷらうどん。前日の足尾植樹祭で買った、コシアブラとタラの芽に我が家の春菊を揚げた山菜の天ぷらうどん。鳥カラ揚げやコゴミのおひたしなども出て、超豪華な山ごはんとなった。お腹いっぱいになったら撤収し、二の岳へ

向かう。コルまでは来た道を戻り、一の岳より手ごわい二の岳山頂を目指す。登りでは気が付かなかったが、一の岳の登山道はアカヤシオの花でピンクに彩られていた。コルから岩稜を右に回り、北面の灌木混じりの岩場を梯子や鎖を使って登って行く。コルから20分くらいで登れるが、下る人たちが多くすれ違いに時間を取られる。やっと二の岳山頂に着き、すぐ南の眺望の良い岩峰まで行くと沢山の人が休んでいた。二の岳



山頂に戻り、記念写真を撮って下山する。下山は木々岩峠に向かって下り、途中から木々岩峠道を下るが、このコースがかなり荒れていた。木が伐採され登山道が消えて、伐採地に付けられたピン



クのリボンを頼りに降りて行くが、崩れやすくとても歩きにくい。

何度も落石が発生し、そのたびに先行するメンバーから叱られる。やっと見覚えのある尾根に出て安堵し、最後の休憩をとる。尾根から林道を歩くようになり、しばらく下ると車道出た。車道を大塩沢沿いに20分程下ると登山口駐車場に着いた。

帰りも道の駅「しもにた」により、それぞれにご褒美のソフトクリームや味噌田楽を食べ帰路につく。岩峰の登りは結構手強かったが、スリルと眺望が

得られ岩登りの楽しさがコンパクトに纏まった名峰に、皆満足出来たと思う。